

## 平成二十七年度に向かって



昨年、柴田猛会長勇退に伴い会長職を仰せつかり一年が過ぎました。初めは、何から手を付ければ良いのか五里霧中の状態でした。そういう中ではありましたが、役員、会員の皆様方の絶大なるご支援とご協力により、昨年度の事業を無事に終えることが出来ました。感謝申し上げます。

昨年の競技会を振り返れば、第二回世界弓道大会フランス大会に代表選手として山口純選手が選ばれました。全日本男子弓道選手権大会では、小松正幸選手が、県勢として久々に難関の予選を通過し、惜しくも入賞は逃しましたが、健闘したことは県内弓友に自信をもたらしました。全日本官公庁弓道大会では原子力機構が優勝、明治神宮全国弓道大会では橋本真也選手が称号者の部で準優勝、全自衛隊大会杉山義光選手が準優勝、萩野谷綾子選手が五位、長崎国体においても、成年男子が関東ブロックを二位通過し、本国体でも近似的五位入賞。成年女子は関東ブロックを一位通過しましたが、本国体では惜しくも予選敗退、今後のリベンジが期待されます。全国高校弓道大会では、女子個人で竹園高校の内田茜選手が七位入賞、関東高校弓道大会では江戸崎総合高校が技能優秀校に選ばれ男子個人でも村松真選手が二位と健闘しました。中体連においても活躍がみられ、全日本少年少女武道錬成大会で清真学園中校が優秀賞、茨城県で開催された関東中学生弓道大会では、男子団体で清真学園中が他を圧倒しての優勝、三位に阿見中、四位に千波中、個人では清真学園中、菊池凜選手が二位、関優太選手が三位入賞、女子の部団体四位内原中、七位竹来中、個人では内原中、瀧澤なつみ選手が優勝、竹来中の齊藤若菜選手が七位。全国中学生弓道大会においても、男子団体清真学園中の強さは変わりませんでした、予選から一度もトップを譲らず独走しての優勝でした、個人も菊池凜選手が準優勝と、昨年度は若い弓士の活躍が見られました。

審査合格数を見てもみますと、連合審査の五段合格者が十名、錬士六名、六段六名、教士四名、七段一名でした。徐々に日頃の修練が身を結び始めた感が見え始めました。県内審査も、受審者数2800名の受審があり活発に推移いたしました。

全弓連に目を向けると、昨年は矢羽根の問題が大きく問われた年でした。月刊弓道に掲載されたように、問題の当事者に称号の返上を求める厳しい処分が下される結果になりました。茨城県会員の皆様には、必ず正規の弓具商から購入すること、絶対にインターネットや密猟と思われる矢羽根の入手は厳禁であることを周知徹底するようお願いいたします。

最後になりましたが、今後も弓道の底辺拡大に力を注いでください。弓道経験者が何千人と眠っております。県内の称号者が、年に一名の会員を勧誘すれば、毎年百五十名以上の会員が増えていきます。また、高校、中学生のOB会等を活発化し、活動の充実を図り、OB大会等を計画するなど、何かこれまでにない発想で、年々減少傾向ある弓道人口に歯止めをかけようと考えております。

今年度は、平成三十一年の茨城国体に向け、県立武道館の改修工事が九月より開始されます。事業の一部が実施できない状態が来年三月まで続き、大会の一部が開催できないなど、会員の皆様方には大変なご不便をおかけいたします。厳しい一年間になりますが、会員一同協力しあい、精進努力し良い年になるよう期待しています。

茨城県弓道連盟会長 久保田 清